

新聞小説史

明治篇

著 者 略 歴

明38年12月 福井市生
 昭2年4月 国民新聞入社
 昭5年3月 読売新聞社会部に移る
 昭6年9月 大阪毎日新聞社会部に移る
 昭10年2月 長春で大新京日報創刊
 昭13年9月 南京支局長
 昭14年5月 読売新聞退社、北京で東亜新報を創刊、主筆となる
 昭20年8月 北京で敗戦を迎え、国民政府中央宣伝部に留用される、華北日報日文版を担当
 昭21年3月 華北日報退社、5月帰国
 昭21年7月 三たび読売新聞入社、論説委員となる
 昭24年4月 コラム「編集手帳」担当
 昭31年4月 小説委員会委員となる

昭35年12月 定年延長、コラム書きつづける
 昭47年11月 論説委員会顧問をやめる
 昭48年1月 読売新聞社友となる

主 な 著 書

昭18年6月	「北京横丁」	大阪屋号
昭18年7月	「北京百景」	新民印書館
昭27年6月	「生きている日本史」	鱒書房
昭27年10月	「日本という名の独立国」	河出書房
昭32年2月	「生きている中国史」	河出書房
昭39年4月	「新聞小説史稿」	三友社
昭42年4月	「紅衛兵」	合同出版社
〃 11月	「毛沢東の青春」	講談社
昭44年2月	「東南アジアの夜明け」	読売新聞社
昭45年5月	「唐詩選の旅」	講談社
昭48年4月	「金日成物語」	番町書房

新聞小説史 明治篇

昭和49年11月25日 印刷

昭和49年12月16日 発行

定価 3,800円

著作権者との
 申合せにより
 検 印 省 略

著 者 高 木 健 夫

発行者 佐 藤 今朝夫

製作・佐藤克彦

東京都豊島区巣鴨3-5-18

発行所 株式会社 国 書 刊 行 会

電話 (917)8287(代表) 振替・東京 65209

落丁本・乱丁本はお取替いたします。印刷・セイユウ写真印刷(株)製本・青木製本

は し が き

明治期をこのように纏めてみると、この新聞小説史は「文学的社会史」とみて頂いてもいいような気がしてきた。思えば、十七、八年前になる。三友社長北村卓三氏から、同社が発行する「三友」誌上に新聞小説史を書いてほしい、といわれた。朝日新聞研究室の平井徳志氏の「新聞小説史研究」をたいへん面白いと思って読んでいた矢先であったが、さて、自分がやれといわれてみると、そのテーマの大きさと手許の資料の心許なさに、とてもやれない気がして断わった。しかし、柴田鍊三郎氏や源氏鶏太氏が、高木なら適材だといっているし、はじめのうちは随筆風でよろしいから是非書けという北村社長の強引な説得に負けて、書きだした。

そうして連載三年、三友社の処女限定出版で、豪華本「新聞小説史稿」が採算を無視した犠牲によって刊行された。伊藤整氏や石川達三氏、大仏次郎氏にほめられたが、肝腎の新聞小説年表がたいへん不完全なもので、先ずこの年表づくりが必要である、と考え直し、その作業を、昭和女子大國文科を出たばかりの柴田瑳予子女史（旧姓神野）の手を借りて進めた。

この年表づくりには八年ちかい歳月を費やした。この間に神野女史は柴田夫人となり、二人の子の母となった。いちいちその新聞に当って掲載年月その他を確かめるのだから、この年表作成には異常な根気が必要であったことはいうまでもない。

この年表の整理をしているうちに、さきに刊行した「新聞小説史稿」とは別に、この年表を柱として、新しく新聞

小説史をやり直さなければ気がすまなくなってきた。

日本新聞協会発行の「新聞研究」誌上に、江尻事務局長の好意によって連載五年、ようやく明治期を終り、大正期に入ったのを機として「史稿」ならぬ「史」の第一巻を上梓することができた。これは新聞小説史（明治期）の一端の決定版のつもりである。

日刊新聞が小説を連載している国は一、二をのぞいて、現代ではほとんどない、といっていいが、小説を新聞に分載することをはじめたのは一八三六年のフランスのプレス紙がはじめであろう。これには、大デューマ、バルザック、ユーゴ、ゴーチエなどが書いている。それから、ゾラやモーパッサン、ドードーなどの作品が、各新聞に連載された。

しかし、新聞小説の元祖のフランスでも、新聞小説として読者の圧倒的人気を得た最初のものとはといえば、デュマの「三銃士」や「モンテ・クリスト」ではなく、日本ではほとんど無名のユージェヌ・シユーの「パリの秘密」（一八四二年「ジュールナル・デ・デバ」紙連載）であったことは、文学的作品と、新聞小説との差違も、東西古今を通じて似たようなものだ、という感じを与える。しかし、ビクトル・ユーゴの「レ・ミゼラブル」がこのシユーの「パリの秘密」をヒントにふまえているといわれるのだが、そうだとするとこれまた「金色夜叉」をふまえた漱石の「虞美人草」の関係が思い合わされる。

日本における新聞小説は、くわしくは本文によりたいが、明治初期には小説というよりも、殺人事件などの判決公判を、そのまま報道したのでは当時の読者が理解しにくい、というので、実話風に書きかえて、数日もしくは十数日間にわたって連載した——いわば、新聞報道のひとつの手段が、やがてフィクションにふくらんで小説風のもの

なり、通俗小説になっていった、という経過をとっていることが、他国の場合とはちがっている。

自由民権の時期には、これが政治小説となって民権思想宣伝の強力な武器となった。明治の末期には、家庭小説となって、家庭のモラルを考えさせる教科書的な役割りを果たした。その役割りを、今日の果しているのがテレビの連続ホーム・ドラマであろう。

新聞の連載小説は、その読者層の大部分をテレビのホーム・ドラマにさらわれてしまったといつてよい。しかし、それでも、新聞は小説を連載することをやめない。新聞にいま連載されている小説は、たいがい問題意識をかかえた密度の濃い佳作の多いことも特徴的である。新聞の文学に対する関係は、かつては作家のパトロンであり、ロマンを生み出す水源池であった時代と、状況は変つて来ても、マス・コミのメディアが多極化した現在においてもなお、やはり極めて密接である。

新聞小説史を辿っていると、作家と新聞社の幹部の人間関係の重味がよくわかる。それが新聞小説の作品としての出来に深くかわり合っていることもわかつてきた。そうしてまた新聞社と作家とのかかわり合いをみてゆくうちに、作家の生活の起伏がそこに投影していることもわかつてきた。

また、新聞の商業主義が進むにつれて、新聞を売るために、作家の書こうとするテーマや人物の性格描写などに、新聞社が注文をつけるというような場合も出て来た。作家がそれを拒めば、原稿は採用されぬ。生活のために、良心を殺してまで、その新聞社の営業政策に適応したものを書く、あるいはその政策を先取りした作品を書く、という作家もすくなくはなかった。

その傾向が露骨に作品にあらわれた時代が、ちょうど、新聞小説即通俗小説とおとしめられ、そうでない作家の作

品までが、新聞に連載されたというだけのことで、通俗小説とされてるくに評価もされぬという風潮を生んだ。

初期の、中里介山の「大菩薩峠」がそれである。

新聞社にとって、あるいは新聞の営業政策からいって、新聞小説は、必ずしも不朽の名作、傑作である必要はない。ただ毎日の読者の興味をつなぎ、明日の新聞が待ち遠しいという関心を持たせる作品であればよい。もしくは毎日の話題にのぼるようなテーマを追う作品であればよいのである。

このように露骨な新聞社の商業主義と、作家の芸術的欲求と良心は、ときにしばしば対立し、衝突した。しかし、そのような制約の中にあっても、新聞は多くの古典的な名作を送り出している。漱石の作品のほとんど大部分がその好例だが、そこには、新聞の商業主義が芸術作品を抱擁し、作家の芸術的良心が、新聞政策を理解した、という関係がみられる。この関係は、深く理解し合い、強く結ばれた新聞社幹部と作家との友情の上に成り立つものであることを、わたしは東京朝日主筆の池辺三山と漱石の二人にみる。

わたしは、このような人間関係を、この小説史の中で、いくつか掘り起してゆきたいと願った。

「掘り起す」といえば、新聞小説とはいわずにただ「続き物」といわれた初期のころの新聞記者たちの、いまになっても、近代文学史家からは一向に評価されずに埋もれている作品に、もう一度光りをあて、先輩記者の努力を後世の文学史家のために書き残しておきたい、という強い念願をこめてわたしは書きつづけた。

「続き物」時代の新聞小説の作者は、そのほとんどがその新聞社に属する新聞記者であった——という言い方はすこし正確ではない、明治初期の新聞には、多くの戯作者が、幹部として、記者として入っていたのだからこの人たちは、新聞記者というよりも戯作者として「続き物」を書いたのかもしれないからである。

しかし、いずれにしても、新聞記者が記事を書くかたわらに小説を連載していたという期間は、相当に長くつづいた。そしてこの長い期間に、新聞記者によって書きつがれた多くの作品は、一、二の例外をのぞいては、文学的評価を与えられてはいないが、社外の専門作家よりも深く読者の心理をつかみ、その興味や関心がどこにあるかを知っていたから、新聞記者の書く小説は、その日、その日の読者の心をとらえ、十分に満足させ、そしてそれと同時に新聞の営業政策に奉仕していた。

本書では、近代文学史上にまだ席を与えられてはいないこれらの作家の文学的——というよりも文学的続き物を民衆に読ませることによって、いわゆる小説読者の層をひろげていったという文化史的な新聞記者の役割を高く評価している。「文学的社会史」として読んでいただけるかもしれない、とひそかに自負しているゆえんである。

資料については、ほとんどの関係機関、研究所のお世話になった。ことに国会図書館、東大明治新聞雑誌文庫、読売新聞社をはじめ各新聞社の資料部、図書部、社史編集室、昭和女子大近代文学研究会からは非常な恩恵を受けたことを謝し、御礼を申し上げたい。

日本新聞協会、「新聞研究」編集部のみなさん、国書刊行会の仁田さんにも長い間、御苦勞をかけた。厚く御礼申し上げる次第である。

まことに申しわけのないおことわりを二、三つけ加えることをお許し頂きたい。

それは、この種の著作には絶対不可欠の年表（本書の場合は「新聞小説年表」）をつけ加えることが、頁数の上から、どうしても出来なかった、ということである。年表を加えて「明治篇」を上・下二冊にすることも考えたが、年表は、明治初期から昭和戦後まで一応まとめてあるので、これだけを一本にまとめることにした。

さらに関係資料は、これまた、新聞そのものの複写とともに図表を加えて一本にまとめるつもりである。現在、書き進めている「大正篇」も別に一本にまとめ、さらに「昭和篇」は上・下二冊になるうか、と思う。合せて六巻で、一応、戦後までの「新聞小説史」を完成させる計画である。

昭和四十九年臘月

古稀を迎えて

高 建 子

敬 白

参考文献

地図・年表・辞典

岩波 近代日本総合年表

日本文学全史卷15 新訂日本文学年表 高野辰之・本間久雄編

(昭和33・4・10) 東京堂

新修日本小説年表 朝倉無声撰(大正15・9・30) 春陽堂

日本百科年表 大久保利謙、下村富士男編(昭和36・7・10 三

版) 朝倉書店

模範最新世界年表 三省堂編輯所(昭和18・3) 三省堂

現代日本文学辞典 近代文学社編集(昭和31・12・15) 河出書房

近代日本文学辞典 久松潜一・吉田精一編(昭和36・2・1 七

版) 東京堂

続明治全小説戯曲大観 高木文編著(大正15・6・15) 聚芳閣

縮約日本文学大辞典 藤村作編纂(昭和30・1・20) 新潮社

総合編年近代文学事典 石上堅(昭和32・10・1) 一歩社書店

東京全図附横浜図 二万分之一(明治32) 奎暉閣

古図より見たる丸ノ内 (昭和4・12・27) 三菱合資会社地所

部

三越のあゆみ 三越のあゆみ編集委員会(昭和29・11・1) 三

越本部総務部

大三越歴史写真帖 豊泉益三編集(昭和8・2・21) 大三越歴

史写真帖刊行会

大日本名所図会 — 東京近郊名所図会 第78編、82、85編、89

編、91編(明治43・5・20) 東陽堂

新撰東京名所図会 第7、9編、17、19編(明治30・7・25)

東陽堂

記念図録不破瑳磨太 明治・大正・昭和挿絵文化展 電通

新聞史・新聞社史・文学史

日本新聞史 山本文雄(昭和23・9・15) 国際出版

日本新聞百年史(昭和35・11・5) 日本新聞百年史刊行会

日本新聞史 小野秀雄(昭和24・2・20) 良書普及会

読売新聞八十年史(昭和30・12・1) 読売新聞社

山形県新聞史話 — 県政党の略史 — 川崎浩良(昭和24・10・

1) 山形県新聞社

毎日新聞七十年(昭和27・2・1) 毎日新聞社

大阪毎日新聞五十年(昭和7・3・10) 大阪毎日新聞社

東日七十年史(昭和16・5・15) 東京日日・大阪毎日新聞社

朝日新聞七十年小史(昭和24・1・25) 朝日新聞社

朝日新聞の九十年 清水三郎 朝日新聞外史(朝日旧友会報26

・27号)

東京朝日新聞小観(昭和2・4・10) 東京朝日新聞社

西日本新聞七十五年史(昭和26・4・15) 西日本新聞社

中国新聞六十五年史(昭和31・5・5) 中国新聞社

神戸新聞五十五年史(昭和28・7・2) 神戸新聞社

北国新聞社六十年小史(昭和29・9・8) 北国新聞社

西日本新聞社史(昭和26・4・15) 西日本新聞社

中部日本新聞十年史(昭和26・9・1) 中部日本新聞社

四国新聞六十五年史(昭和30・11・3) 四国新聞社

高知新聞五十年史(昭和29・9・1) 高知新聞社

報知七十年(昭和16・6・10) 報知新聞社

熊日二十年史(昭和36・10・3) 熊本日新聞社

帝都日日新聞十年史(昭和18・8・10) 帝都日日新聞社

日本經濟新聞八十年史(昭和31・12・2) 日本經濟新聞社

北海道新聞十年史(昭和27・8・5) 北海道新聞社

愛媛新聞八十年史(昭和31・11・3) 愛媛新聞社

山陽新聞七十五年史(昭和29・11・5) 山陽新聞社

東奥日報と明治時代(昭和33・10・6) 東奥日報社

新聞の歴史 小野秀雄(昭和36・6・20) 東京堂

本邦新聞史 朝倉龜三(明治44・5・1) 雅俗文庫

明治文化資料叢書第12卷新聞編 西田長寿編(昭和35・1・

20) 風間書房

横浜新聞・もしほ草 江湖新聞 小野秀雄 解題並ニ校訂(大

正15・10・9) 福永書店

大阪の新聞 福良虎雄 岡島新聞舖

かわら版物語 江戸時代マス・コミの歴史(風俗文化双書1)

小野秀雄(昭和35・12・5) 雄山閣

本邦新聞の起源 鈴木秀三郎(昭和34・8・25) クリオ社

日本新聞発達史 山本文雄(昭和19・2・11) 伊藤書店

新聞学 III・IV 岡野他家夫(III・昭和24・12・20 IV・昭和

25・2・15) 日本大学通信教育部事務局

最近新聞紙学 楚人冠杉村広太郎(大正4・12・28) 慶応義塾

出版局

新聞学習 子供に新聞をどう読ませるか 岡山光雄(昭和7・

6・20) 先進堂

新聞五十年史 伊藤正徳(昭和18・4・20) 鱒書房

日本政治百年史 金森徳次郎・山浦貫一(昭和28・9・20) 時

事新報社

日本歴史新書 明治時代の新聞と雑誌 西田長寿(昭和36・8

・25) 至文堂

新聞太平記 赤沼三郎(昭和5・11・15) 雄鶏社

新聞太平記 御手洗辰雄(昭和27・10・15) 鱒書房

月刊 全国新聞小説一覽(昭和32・12月号・36・12月号) 新聞

展望社(昭和36・5まで) マスコミ研究所(昭和36・

6より)

悪文 岩淵悦太郎編(昭和35・8・31) 日本評論社

趣味あれこれ巻五 閑適生活 中 津島寿一(昭和36・5・20)

芳塘刊行会

U新聞年代記 上司小剣(昭和9・3・21) 中央公論社

新聞社の裏面 正岡猶一(明治34・3・21) 新声社

四十五年記者生活 松井柏軒(昭和4・9・25) 博文館

新聞三十年 中根 栄(昭和11・2・20) 双雅房

新聞業界五十五年 思出断 湯沢精司述・篠田鉦造編(昭和12

・6・9) 広告社

文芸記者三十年 辻平一(昭和32・1・20) 毎日新聞社

新聞そのをりく 太田正孝(大正15・6・10) 日本評論社

新聞ざんげ 太田正孝(昭和5・4・1) 先進社

新聞気焰 伊藤金次郎(昭和4・7・18) 刀江書院

新聞たちばなし 植原路郎(昭和32・8・30) 虎書房

新聞に入りて 下村宏(大正15・2・15) 日本評論社

一記者の頭 藤田進一郎(昭和4・9・15) 大阪屋号書店

新聞ニユースの研究 関一雄(昭和8・10・17) 厚生閣

新聞生活二十年 伊藤正徳(昭和8・12・5) 中央公論社

現代風俗帖 木村莊八(昭和38・3・20) 東峰書房

銀座百話 篠田鋤造(昭和12・5・20) 岡倉書房

銀座解剖図 変遷史編 石角春之助(昭和9・7・30) 丸之内

出版社

銀座 松崎天民(昭和2・5・5) 銀ぶらガイド社

新古細句銀座通 しご、ぎんぐ、れんごのみちす 岸田劉生(昭和34・7・5) 東峰書院

銀座 資生堂編輯(大正10・10・15) 資生堂化粧品部

銀座年鑑 昭和三十一年(昭和31・1・1) 銀座タイムス社

明治文化資料叢書第11卷世相編 大藤時彦編(昭和35・10・30)

風聞書房

日本の百年 写真でみる風俗文化史 毎日新聞社図書編集部編

(昭和34・11・1) 毎日新聞社

幕末維新風俗写真史(昭和25・2・8) 山田集美堂

日本の変遷(昭和30・3・20) 中外情報社

写真図説 総合日本史 近代編上 日本近代史研究会(昭和30

・11・28) 国際文化情報社

新生日本外交史 日米通信社(昭和17・11・10) 東京日日新聞

社

風俗画報 第28(明治24・5・10)ゝ33号、第48ゝ54号、第64

ゝ71号(明治27・4・10) 東陽堂発行

銀座煉瓦街の建設 都史紀要 3(昭和30・3・30) 東京都

風俗画報増刊 東京勸業博覧会図会 第5編(明治40・7・

25) 東陽堂支店

大海嘯被害録 風俗画報臨時増刊(明治24・7・10) 東陽堂支

店

鶯亭金升日記 花柳寿太郎・小島二朔編(昭和36・10・15) 演

劇出版社

朝比奈知泉文集 朝比奈知泉文集刊行会(昭和2・4・15) 朝

比奈知泉文集刊行会

明治新聞綺談 篠田鋤造(昭和22・10・25) 須藤書店

一般投書の月間報告 読売 読者相談部新聞と読者の直結 三

月―十二月(昭和26・12) 新聞監査局読売相談部

全国新聞購読者調査 昭和27・4、昭和30・7 朝日新聞世論

調査室

読売新聞の連載小説は読まれているか 昭和33・6 東京都・

前橋市・読者調査報告 読売新聞社調査部

新聞読者世論報告 昭和34・3 東日本 読売新聞社調査部

読売新聞読者調査報告 昭和31・10・9ゝ10・15 東日本 読

売新聞調査部

現代日本文学史 明治・中村光夫、大正・白井吉見、昭和・平

野謙

現代日本文学全集 別巻1(昭和34・4・30) 筑摩書房

講座 日本近代文学史 1 日本近代文学の成立 明治上 片

岡良一監修・小田切秀雄編集(昭和31・10・15) 大月

書店

日本現代史大系 文学史 小田切秀雄（昭和36・11・30）東洋

経済新報社

国民の文学 1 近代編 1 岩波講座 文学4（昭和29・1

・30）岩波書店

改訂 文学入門 伊藤整（昭和31・12・1）光文社

物語 近代文学史 新井鮎一郎（昭和34・10・31）新読書社出

版部

岩波講座 日本文学史 第11卷（昭和33・6・10）12卷（昭和

35・2・10）13卷（昭和34・2・10）14卷（昭和34・

5・11）

日本文壇史 開化期の人々（昭和29・1・20）新文学の創始者

たち（昭和29・3・31）悩める若人の群（昭和30・5

31）硯友社と二葉の時代（昭和31・7・25）伊藤整

講談社

明治文学史 岩城津太郎（昭和20・12・1）修文館書店

明治文学史 永井一孝（昭和10・1・25）敬文堂

座談会 明治文学史 柳田泉、勝本清一郎、猪野謙二編（昭和

36・6・9）岩波書店

続 明治文学史 上・中 本間久雄 東京堂

明治文学雑誌 蛭原八郎

明治文学史 岩城津太郎（昭和23・6・10）修文館書店

日本文学 現代編 毛利昌（昭和33・4・10）東洋書院

近代日本の文学史 伊藤整（昭和33・9・25）光文社

日本の近代小説 中村光夫（昭和34・4・10）岩波書店

文芸五十年史 杉山平助（昭和17・11・20）鱒書房

現代日本文学史 資料と解説 石丸久編著（昭和34・5・25）

矢島書房

史的唯物論より観たる近代日本文学史 篠田太郎（昭和7・4

・5）春陽堂

明治文化史 思想言論編（昭和30・3・30）洋々社

日本文学史、近代と現代 和田繁二郎（昭和37・6・30）法律

文化社

国文学論叢 第5輯 近代文学研究と資料 慶応義塾大学国文

学研究會編（昭和37・9・30）至文堂

日本文学 世界周遊紀行一、アメリカ篇 瀬沼茂樹（昭和37・

3・15）角川書店

近代日本の小説 岡崎義恵著作集 9（昭和34・6・20）宝文

館

近代文学研究叢書 9 昭和女子大学近代文学研究室 第1

19巻 第1巻発行（昭和31・1・20）光葉会

明治文化史 7 文芸編（昭和28・12・20）洋々社

明治文化資料叢書 第8巻 翻訳文学編 柳田泉編（昭和34・

10・25）風間書房

明治大正文学史 吉田精一（昭和24・11・5）東京修文館

明治文学史 上（昭和33・2・10 十一版）・下 東京堂

明治文学展望 木村毅（昭和3・6・28）改造社

現代文学論大系 1巻 中島健蔵・吉田精一編集（昭和29・3

5）河出書房

日本現代文学十二講 高須芳次郎（大正14・8・5 十二版）

新潮社

文学東京案内 槌田満文編著（昭和31・3・20）緑地社

新東京文学散歩 野田宇太郎（昭和26・6・25）日本読書新聞

アルバム 東京文学散歩 野田宇太郎（昭和29・3・30）創元

社

明治大正、小説とそのモデル 糸井武雄（大正15・12・6）章

華社

近代名作モデル事典 吉田精一編（昭和35・1・20）至文堂

金色夜叉の真相 巖谷小波（昭和3・1・28 八版）黎明閣

名作はこうして生れた 松山悦三（昭和33・4・1）アジア出

版社

小説仕入帳 小杉天外（昭和16・1・25）中央公論社

平民社時代 荒畑寒村

出版文化史 I・II 岡野他家夫 I（昭和29・12・25）II

（昭和30・5・5）室町書房

探偵小説四十年 江戸川乱歩（昭和36・7・5）桃源社

明治文学講座 4巻 明治文学の特殊的研究 下 福田久道編

（昭和8・3・6）木星社書院

書物から見た明治の文芸 岡野他家夫（昭和17・12・20）東洋

堂

明治文学の片影 佐々木信綱（昭和9・10・25）中央公論社

政治小説研究 上 柳田泉（昭和10・5・17）春秋社

蕩揺期の東京文壇 東京都史紀要 第14（昭和30・12）都政史

料館

文芸瑣談 坪内逍遙（明治40・5・18）春陽堂

自己中心・明治文壇史 江見水蔭（昭和2・10・28）博文館

続 わが文壇紀行 水守亀之助（昭和29・5・1）朝日新聞社

私の見た明治文壇 野崎左文（昭和2・5・15）春陽堂

「非常時日本」文壇史 巖谷大四（昭和33・9・20）中央公論

社

硯友社の文学運動 福田清人（昭和25・5・30）巧芸社

硯友社と紅葉 江見水蔭（昭和2・4・3）改造社

紅葉と露伴 伊藤整 岩波講座 日本文学史 第12巻 近代（昭

和35・2・10）岩波書店

尾崎紅葉 福田清人（昭和16・6・20）弘文堂書房

後期硯友社文学の研究 猪狩章 矢島書房

文壇楽屋観 妖堂居士（明治34・7・13）新声社

文壇恋愛史 続文壇恋愛史 田中純（昭和29・9・11）続（昭

和30・12・15）新潮社

明治文学研究誌 岡野他家夫（昭和13・12・18）東京武蔵野書

院

日本文芸発禁史 馬屋原成男（昭和27・7・10）創元社

文芸の心理学 高橋義孝（昭和30・4・30）日本教文社

作家論 伊藤整（昭和36・12・15）筑摩書房

小説神髓 坪内逍遙（昭和37・2・10）岩波文庫

新 聞

朝日新聞 明治21・4・6～4・28

東京朝日新聞号外 明治30・6・20

東京朝日新聞 明治30・1・16、1・24／2・2／2・4／2

5 / 2 . 10 / 2 . 14 / 2 . 16 / 2 . 17 / 2 . 20 / 2
 24 / 2 . 27 / 2 . 28 / 3 . 11 / 14 / 3 . 16 / 3 . 17
 3 . 23 / 28 / 3 . 30 / 3 . 31 / 4 . 25 / 30 / 5 . 1
 5 . 2 / 5 . 4 / 8 / 7 . 11 / 8 . 9 / 8 . 11 / 8
 13 / 19 / 8 . 21 / 8 . 22 / 8 . 24 / 26 / 8 . 31
 東京朝日新聞 附録 明治30 . 2 . 2 / 2 . 3 / 2 . 5 / 2 .
 10 / 2 . 14 / 2 . 16 / 2 . 20 / 2 . 24 / 2 . 27 / 3 .
 11 / 14 / 3 . 16 / 18 / 3 . 24 / 28 / 3 . 30 / 3 . 31 /
 4 . 28 / 5 . 1 / 5 . 4 / 5 . 6 / 6 . 17 / 6 . 30
 心理時報 1 / 20号 (15 . 17 . 18欠) 1号 (明治43 . 7 . 12)
 20号 (明治44 . 6 . 5)

郵便報知新聞 第1号 (明治5 . 6) / 30号 (明治5 . 11)

郵便報知新聞 第54号附録 (明治6 . 5) 報知社

郵便報知新聞 明治20 . 5 . 3 / 5 . 6

東京日日新聞 明治37 . 5、明治37 . 7、明治37 . 8、明治37 . 9、明治37 . 12、明治38 . 1、明治38 . 4、大正14 . 4

時事新報 明治41 . 3 . 1 発行縮刷版 (昭和36 . 8 . 15) 日

本新聞資料協会

東洋自由新聞 全 再生外骨編 (昭和6 . 9 . 25) 半狂堂

覆刻 世のうはさ 明治文化研究会編 (昭和9 . 10 . 29) 書物

展望社刊

北国新聞 明治29 . 2 . 11 / 2 . 16 / 3 . 1 / 3 . 8 / 3 . 15

/ 3 . 22 / 3 . 27 / 3 . 29 / 4 . 5 / 4 . 19 . 26 / 5
 3 / 5 . 17 / 5 . 24 / 6 . 7 / 6 . 17 / 6 . 27 / 7

7 / 7 . 12 / 7 . 23 / 7 . 26 / 8 . 5 / 8 . 16 / 8
 23 / 9 . 6 / 37 . 10 . 8
 北国新聞 明治28 . 1 . 1 / 12 . 31

北国新聞号外 明治37 . 5 . 2 / 5 . 4 / 6 / 5 . 8 / 5 . 10

5 . 11 / 5 . 14 / 5 . 19 / 5 . 20 / 5 . 21 / 5 . 28
 5 . 30 / 5 . 31 / 6 . 1 / 6 . 3 / 6 . 5 / 7 / 6 . 9
 11 / 6 . 13 / 21 / 6 . 23 / 26 / 6 . 28 / 30 / 9 . 1
 9 . 2 / 9 . 4 / 9 . 6 / 9 . 8 / 9 . 10 / 9 . 14 / 9 . 17
 9 . 19 / 9 . 20 / 9 . 22 / 9 . 24 / 9 . 28 / 9 . 29
 10 . 4 / 10 . 9 / 10 . 12 / 10 . 13 / 10 . 16 / 10 . 17
 10 . 19 / 10 . 20

読売新聞附録 深沢久道編 (明治27 . 1 . 1) 日就

社

内外各種 新聞要録 蕉雨堂主人編纂 第1、2号 1、2と

も官許 明治5年9月 万巻楼

中外新聞 36号 / 40号 (慶応4 . 5 . 15 / 5 . 25)

有喜世新聞 1245号 / 1260号 (明治15 . 3 . 12 / 3 . 31) 三益社

万国新聞紙 第八集 英国教師ペーリ編 (慶応3 . 11上旬) 三益社

開花新聞 第1号 / 30号 (明治16 . 3 . 10 / 4 . 15) 三益社

団珍聞 明治14 . 12 . 17 / 明治15 . 3 . 11、明治19 . 1 . 2

1 . 16、明治21 . 9 . 1、明治23 . 3 . 9 / 4 . 30
 / 4 . 27 / 5 . 4 / 5 . 11 / 5 . 18 / 5 . 25 / 6 . 1
 / 6 . 8 / 6 . 15 団団社

東京絵入新聞 明治13 . 2 . 27 / 4 . 30

八十年の重要紙面 (明治9 / 昭和31) 湧口茂輝編 (昭和31 . 12

・1) 日本経済新聞社

世界と日本 激動下の七十五年 一八七五年～一九五四年 朝

日新聞社(昭和29・10・25)朝日新聞社

文学 11・20号 11(昭和7・4) 20(昭和8・4) 岩波書店
鳴門秘帖 上・下(大正15・8・11) 昭和2・10・14 吉川英

治 上(昭和37・8・20) 下(昭和37・9・20) 中央

公論社

幻影城 江戸川乱歩(昭和26) 宝石社

火華 菊池寛(大正11・10・25 六版) 大阪・東京毎日新聞社

唐人お吉 十一谷義三郎(昭和4・1・30 四版) 万里閣書房

単行本・全集

自由太刀余波鋭鋒 坪内雄藏訳(明治17・5) 東洋館書店

金花夕映 唐金藻右衛門(原版人 前川源七郎)(明治19・3)

稗史 出版図合舎

経世偉勲 前・後編 尾崎行雄 前編(明治20・18 三版) 後

編(明治20・1 再版)集成社書店

慨世悲歌 照日葵 須藤南翠(明治21・7・9) 春陽堂

絵入国定忠治実記 富田直二郎(明治21・3・22) 明進堂

増訂 もしや草紙 福地源一郎(明治22・9・30 三版) 文海

堂

政治小説 雪中梅 末広重恭(明治26・4・16 十版) 嵩山堂

小説 昆太利物語 福地源一郎(明治28・10・15 三版) 一二

三館

政治小説 戦後の日本 前編 末広重恭(明治29・1・13 第

四版) 青木嵩山堂

浮城物語 矢野竜溪(明治29・1・17) 近事画報社

竜溪漫筆 全 聴雪軒叢書10 竜溪随筆・出鱈目の記 閑話集

含む 近事画報社独歩社

内地雜居未来の夢 附京わらんべ 坪内逍遙(大正15・6・

28)

明治文化研究発売行 発売元 福永書店

あられ酒 斎藤緑雨(明治31・12・27) 博文館

名家傑作集 第13編 油地獄 斎藤緑雨(明治9・11・28) 春

陽堂

縮刷 緑雨全集 斎藤緑雨(大正14・25 第九版) 博文館

勇魚捕前 後編 幸田露伴 前(明治33・1・1 第四版) 後

(明治35・1・3 四版) 青木嵩山堂

東西短慮之刃 尾崎徳太郎(明治35・1・1) 春陽堂

あぎなると 前・後編 山田美妙前(明治35・9・11) 後(明

治35・9・30) 内外出版協会

文覚上人物語 日吉堂蔵板

代表名作選集 第19 俳諧師 高浜虚子(大正6・10・18 五

版) 新潮社

鉄仮面 前・中・後編 涙香小史訳述 前(明治26・5・20)

中(明治26・6・10) 後(明治26・7・15) 扶桑堂

人外境 上・中・下 涙香小史訳述 上(明治35・9・5 五

版) 中(明治35・9・1) 下(明治32・10・1) 扶桑

堂

人の妻 黒岩周六（明治39・11・10）扶桑堂

黒岩涙香代表作集 5 噫無情（昭和32・3・20）光文社
史外史伝 巖窟王 黒岩涙香訳 巻1、4、1（明治38・8・

10 四版）、2（明治38・9・29）、3（明治39・3・1）、4（明治30・6・20）扶桑堂

滝口入道 高山樗牛（昭和2・10・24 二四〇版）春陽堂

金色夜叉 紅葉山人（大正15・10・10 一八九版）春陽堂

金色夜叉 上・下 尾崎紅葉 上（昭和36・5・20 十五刷）

下（昭和36・3・20 十五刷）岩波文庫

尾崎紅葉全集 1（大正14・12・20）春陽堂

思ひ出の記 下 徳富健次郎（昭和36・9・30 十九刷）岩波

文庫

不如帰 徳富蘆花（昭和37・1・20 二十五刷）岩波文庫

自然と人生 徳富蘆花（昭和37・8・30 四十一刷）岩波文庫

魔風恋風 前・中・後編 小杉天外 前（明治37・5・8 四

版）中（明治38・3・16 八版）後（明治37・9・23

三版）春陽堂

家庭小説 やどり木 柳川春葉（明治39・1・1）春陽堂

火の柱 木下尚江（昭和34・3・30 第六刷）岩波文庫

秋水三名著 兆民先生 社会主義神髓 神愁鬼哭 幸徳秋水

（昭和22・2・25）竜吟社

コブシ 前・中・後編 小杉天外 前（明治39・10・30）中

（明治40・5・15）後（明治41・7・15）章光閣

魔風恋風 前・後編 小杉天外 前（昭和33・6・20 八刷）

後（昭和33・7・15 七刷）岩波文庫

明治文学全集 各巻 筑摩書房

明治文学名著全集 第3編 小説神髓 坪内逍遙（大正15・2

10）東京堂

明治文学名著全集 第1編 当世書生氣質 坪内逍遙（大正15

・3・12）東京堂

明治大正文学全集 6 幸田露伴篇（昭和3・1・1）春陽堂

明治大正文学全集 9 広津和郎篇（昭和5・4・15）春陽堂

明治大正文学全集 15 村井弦斎・江見水蔭篇（昭和5・12・

15）春陽堂

明治大正文学全集 17 小栗風葉篇（昭和3・10・15）春陽堂

明治大正文学全集 18 菊地幽芳篇（昭和3・6・15）春陽堂

明治大正文学全集 37 有島武郎・有島生馬篇（昭和4・12・

15）春陽堂

現代日本文学全集 2 尾崎紅葉・広津柳浪・山田美妙・川上

眉山集（昭和29・7・5）筑摩書房

現代日本文学全集 7 柳浪・眉山・緑雨集（昭和4・3・

3）改造社

現代日本文学全集 10 二葉亭四迷集・嵯峨の屋御室集（昭和

3・10・1）改造社

日本文学全集 12 二葉亭四迷・樋口一葉・徳富蘆花集（昭和

37・7・5）河出書房新社

現代日本文学全集 34 歴史・家庭小説集（昭和3・6・1）

改造社

現代日本文学全集 51 新聞文学集（昭和6・5・20）改造社

現代日本文学全集 84 明治小説集（昭和32・7・25）筑摩書